



故 博全 太郎 儀

「思い一つ、駆け抜けた人生でした」

仲間と励まし合い、息を切らして登った先には疲れも吹き飛ばすような素晴らしい展望。夫が登山の魅力を感じたのはまた若き学生時代のこと、大きなリュックを担ぎ、北から南まで名だたる山々を巡っておりまして。そしてそんな夫の姿を側で見ていた私もいつしか山のとりこ。『皆が集うお店を』との私達の思いは歳をかさねるごとに強まり、登山用品を扱う仕事を始めたのは当然の流れでした。それから幾度たくさんの方々と更なる高みを目指し、汗を流して頂上へと向かったことでしょうか。春夏秋冬、いろいろな表情を見せる大自然を間近に歓声を上げ、笑みを交わし…。今もまぶたをとじれば過ぎし日々が走馬燈のように浮かび頬が緩みます。

夫博全太郎は、平成〇〇年〇月〇日、七十歳にて大地を渡る風に乗り永久の旅路につきました。人を、山を愛した生涯。きっと夫のことですから、これからも名峰へ挑み続けるのでしよう。またいつか山談義に花を咲かせる日まで、よき面影を抱きしめ私も歩みを進めてまいります。

ご縁を結び、かけがえのない時間を共に過ごして下さった全ての皆様へ、賜りましたご厚情に深謝申し上げます。